

現場作業に密着したテーラリングを実現する 「標準プロセスの構造及びプロセス定義」

第一分科会 (TEAM MUKUTI)

主査	:	阪本 太志	東芝デジタルメディアエンジニアリング(株)
副主査	:	三浦 邦彦	矢崎総業(株)
副主査	:	中森 博晃	パナソニック ファクトリーソリューションズ(株)
研究員	:	(M)松尾 美貴	富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
		(U)内山 哲三	ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ(株)
		(K)久保 敬二郎	富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
		(U)宇野 俊治	SCSK(株)
		(T)田中 宏明	(株)東京ビジネスソリューション
		(I)岩田 英成	T I S(株)

2014年2月28日



Agenda

1. 現状整理と課題の認識

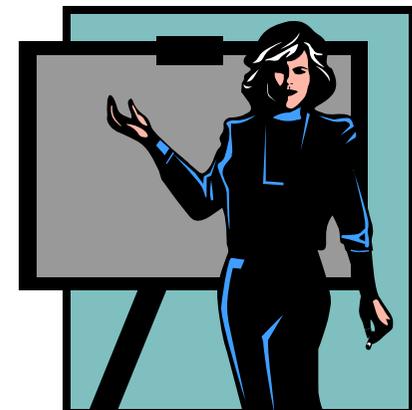
2. 組織標準プロセスの構造とテーラリングの概念

3. プロセス部品とライフサイクルの関係例

4. 実態にあったテーラリング

5. プロジェクト実績に基づいたプロセス改善

6. 期待される効果と今後の課題



1. 現状整理と課題の認識

◎ 現状整理

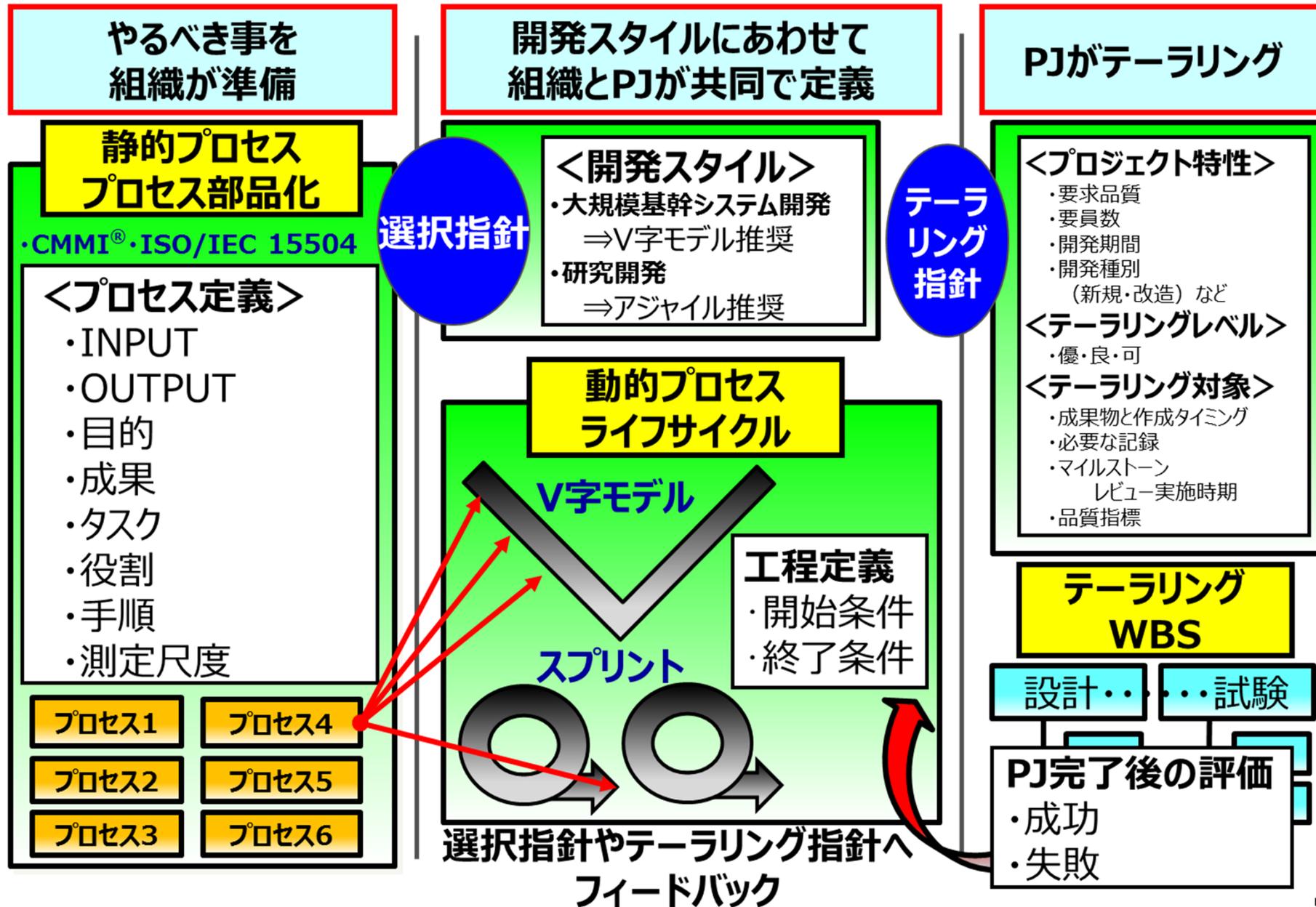
- ① 開発スタイルの進化
- ② 組織標準プロセスの不遵守

◎ 課題

- ① 柔軟な組織標準プロセスの必要性
- ② プロジェクト特性に適合したテーラリング基準の確立
- ③ 組織的改善活動の仕組み確立



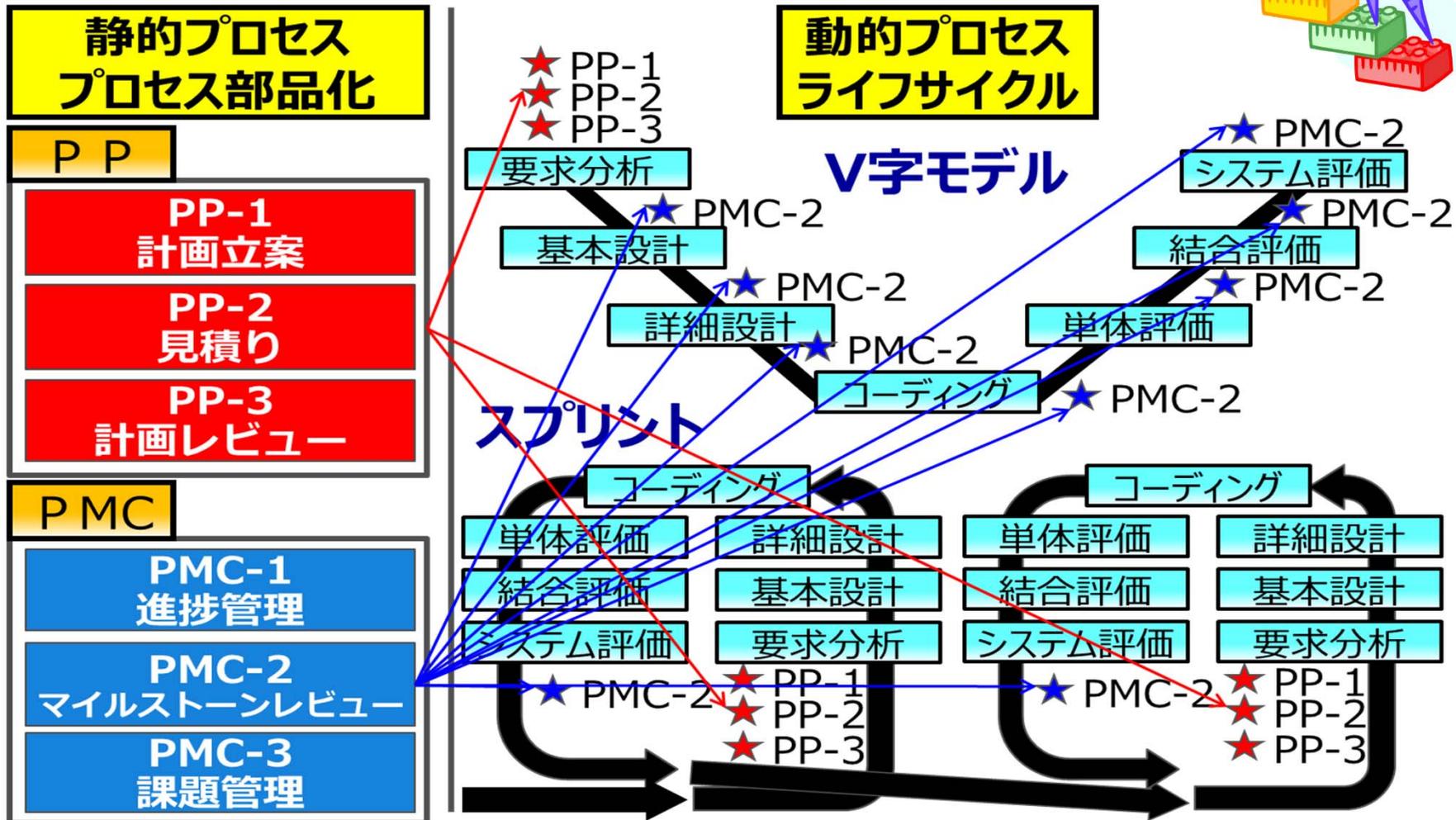
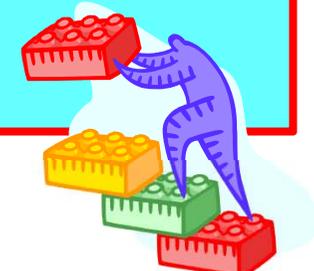
2. 組織標準プロセスの構造とテーラリングの概念



3. プロセス部品とライフサイクルの関係例

部品化されたプロセスを時系列に割り当てる※PP-1~3、PMC-2を割当てた例

- ・部品化されたプロセスは全て割り当てる
- ・同じプロセスを複数回定義可



4.実態にあったテーラリング

◎テーラリングのパターン化！

- ・誰でも簡単にテーラリングが出来る（力量に頼らないテーラリングが可能）
- ・プロジェクト特性にあったテーラリングが出来る（プロジェクトへの負荷軽減）
- ・テーラリング内容が記録として残る（フィードバックが容易）

表4. テーラリングパターン選択マトリクス: 例

テーラリングパターン	開発期間	人員数(工数)	要求品質	開発種別 (新規・改造)	技術難易度	テーラリングレベル
Pattern: 1 テーラリングパターン	1年以上	15名以上	プロジェクト特性	新規	高 中	極(標準) テーラリングレベル
Pattern: 108	3ヶ月以下	5名以下	低(人命・財産・社会インフラ: 影響小)	エンハンス	高 中 低	可 可

表3. テーラリングレベル、テーラリング対象例

テーラリングレベル	テーラリング対象	テーラリング内容
可	テーラリング対象 成果物 品質記録 品質保証監査(工程移行判断) 測定と分析	テーラリング内容 標準プロセス準拠 標準プロセス準拠 標準プロセス準拠 標準プロセス準拠 標準プロセスで定義さ 標準プロセスで定義さ 標準プロセスで定義さ 複数の工程をまとめて品質保証監査を実施する 作成する成果物、作成時期を、プロジェクトで定義する エビデンスとして残す品質記録をプロジェクトで定義する 最終工程完了時期にだけ品質保証監査を実施する 収集する品質データ、品質指標、分析内容をプロジェクトで定義する

① 今回のプロジェクト特性は...

開発期間：1ヶ月、**人員数**：2名 社内向け開発だから、**要求品質**：低
 デバック機能追加だから、**開発種別**：エンハンス、**技術的難易度**：低

② 上記プロジェクト特性を **表4. テーラリングパターン選択マトリクス** にあてはめると...

テーラリングパターン：Pattern:108、**テーラリングレベル**：可

③ 選択されたテーラリングレベルの**テーラリング対象**と、**テーラリング内容**は...

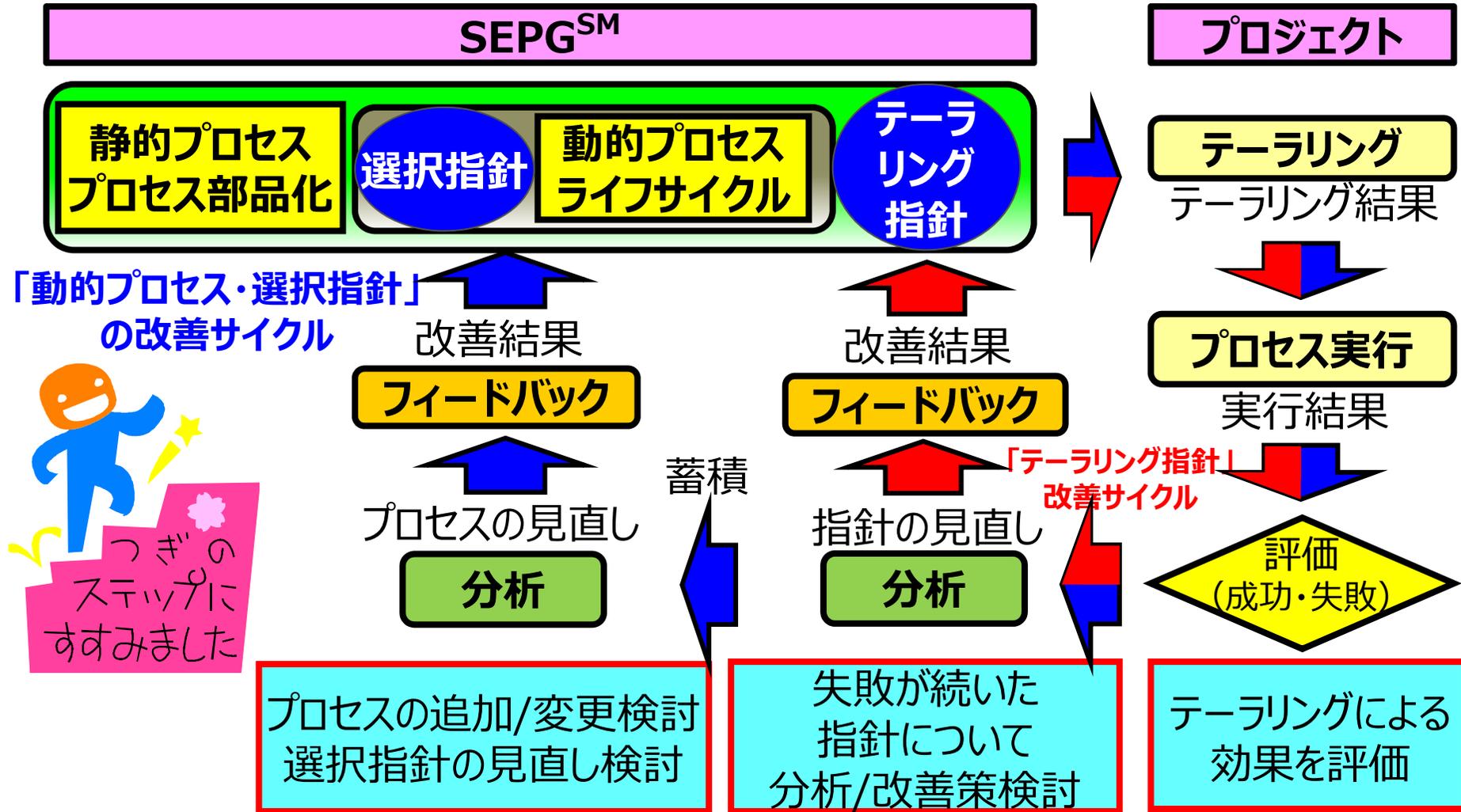
表3. テーラリングレベル、テーラリング対象を見ればいいのか

なるほど、こうテーラリングすればいいんだ！これならプロジェクトへの負荷が低くて、品質も確保出来そうだ。



5.プロジェクト実績に基づいたプロセス改善

◎ テーラリング実績を分析し組織標準プロセスへフィードバック
 ~プロジェクトは成功したか失敗したか~



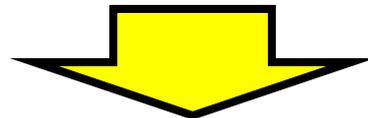
6.期待される効果と今後の課題

◎ 期待される効果

- ① 昨今の急激なライフサイクルの多様化に対応可能
- ② 組織標準プロセスの適用率向上
- ③ プロジェクトに対する必要以上の負荷を軽減
- ④ テーラリング実績をもとにしたプロセス改善

◎ 今後の課題

- ① 静的プロセスの構成要素の検証
- ② 動的プロセス定義の基準整備
- ③ テーラリングで考慮すべきプロジェクト特性の検証



現場での施行が必要！



ご清聴、ありがとうございました。

